

# 富士通の企業向けLLM「Takane」：知財業務への適用ロードマップと実力

## Takaneの進化とロードマップ (2024-2026)



2024年9月  
正式提供開始

富士通とCuhereの戦略的パートナーシップにより、日本特許化証モデルとしてグローバル独占提供を開始。



2025年  
提供形態の多様化と軽量化

クラウド (Generative AI Platform) およびオンプレミス (Nutanix対応) での提供と、1ビット量子化による高速・低メモリ化技術を発表。



2026年  
高度な業務適用とエコシステム  
致知立案・法務業務への包括適用や、AIエージェント開発基盤「Enterprise AI Factory」との統合を予定。



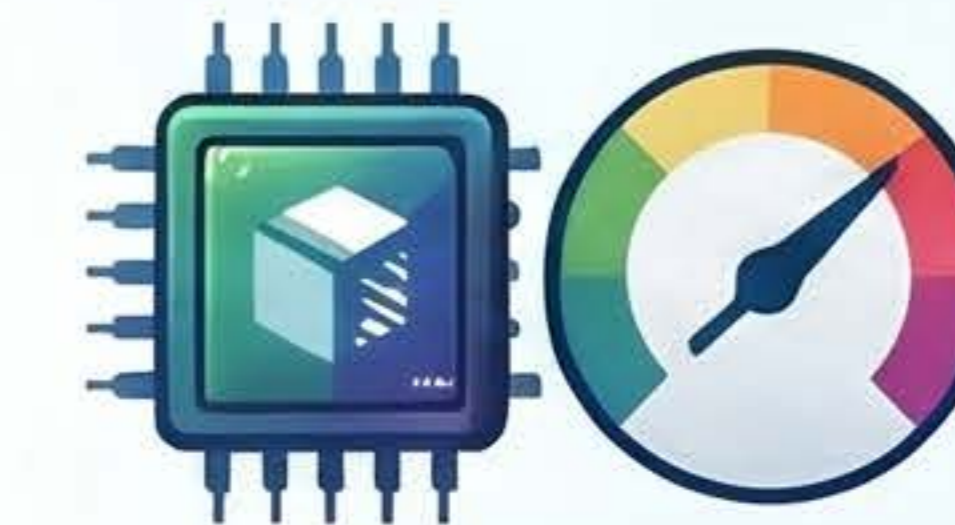
## 圧倒的な日本語性能と技術力



JGLUE平均スコア  
0.92を記録

- GPT-4o (0.88)
- Claude 3.5 Sonnet (0.86)

国内最高水準の日本語理解力を実証 (2024年9月富士通計測)。



1ビット量子化による効率化  
メモリ消費量を最大94%削減しつつ、推論速度を3倍に向上。高い精度を維持したまま適用コストを大幅削減。



実証済みの長文処理能力  
中央省庁のPoCにおいて、12万文字のデータを10分で分取・要約し、正善率80%超を達成。

## 知財実務への適用マトリックス

適合度：高 (即戦力)	適合度：条件付き (ツールとして活用)	適合度：中～低 (単独適用不可)
<ul style="list-style-type: none"> <li>特許明書の要約</li> <li>クレーム構成の分解</li> <li>拒絶理由通知の整理</li> <li>多言語翻訳の下訳</li> <li>社内ナレッジQA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特許明書の下書き</li> <li>先行技術検索のクエリ拡張</li> <li>類似案件のクラスタリング (最終判断は人間が実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先行技術の体系的検索</li> <li>FTO (自由実施) 判断</li> <li>単独・提携の可否判断。公式DB (J-PlatPat等) との併用が必須。</li> </ul>

## 知財部門向け推奨ワークフロー



ステップ1：入力と前処理  
特許明書、GA、契約書等の文書を分割・OCR補正し、機密ラベルを付与。



ステップ2：Takane + RAG実行  
専有環境 (Private Area) にて、社内過去データや公的DBを参照しながら、要約やドラフトを生成。



ステップ3：専門家によるレビューと確定  
弁理士や特許担当者などが内容を点検・修正し、最終的な法的判断を下す。



ステップ4：監査ログの保存  
プロンプト、出力、参照文脈、モデル版数を一体化して記録し、証拠性を確保。

## 組織規模別・導入シナリオ

シナリオ	推奨構成	主な用途	初年度予算目安
小規模 (5-20人)	クラウド専用領域 (Private Area)	要約・翻訳・クレーム分解	数百万円～1,500万円
中規模 (50-200人)	ハイブリッド構成 (NAI/NCP)	部門横断利用・検索支援・BMS連携	2,000万円～8,000万円
大規模 (200人超)	Enterprise AI Factory (オンプレ)	全社IP基盤・特許監査・複数部門	8,000万円～数億円